

パーム油について

食品、洗剤など暮らしに欠かせない多くの商品に使われるパーム油。原料のアブラヤシの主要産地では、農園開発のための熱帯林の伐採に伴う気候変動や野生動物への影響、住民の権利侵害といった深刻な問題が起きてきた。持続可能な生産を目指して、流通や生産を変える動きが出ている。

パーム油が使われる商品

カップ麺、菓子、カレーのルー、マーガリン、シャンプー、化粧品、洗剤など私たちの日常生活の中で、たくさんの商品に使われている。



パーム油に関わる問題点

- ①熱帯林がアブラヤシ農園になることで
 - ・温暖化の加速
 - ・生物多様性の喪失
 - ・森林火災の増加（熱帯林には枯れた植物が地中に積み重なった泥炭湿地が広がる。農園の開発では水を抜いて乾燥させる。乾燥させた泥炭は燃えやすく、地中で燃え続ける。インドネシアでは昨年159万^{ヘクタール}。東京都の7倍が喪失した）
 - ・二酸化炭素の増加（森林のによる吸収率の減少、火災による排出量の増加）
- ②違法な農園開発（野生動物保護区などでも原生林が伐採されオランウータンなどの生息地が脅かされている）
- ③パーム油工場での児童労働・人権侵害等の問題



この問題への対処

- ①認証マークのついた商品を購入する
持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）は手つかずの森林に新たにアブラヤシ農園を作らないことや、労働者や地元住民への配慮などの国際基準を設け、それを満たすパーム油の認証制度を運用している。RSPOには認証マークがあり、製品につけることができる。日本でもジャパン・サステナブル・パームオイル・ネットワークが設立されている。（現在34社）
- ②わたしたちが毎日買っている商品がどこから来ているのか、日々の消費と海外の環境問題、人権問題のつながりを意識する。



（2020/03/22 朝日新聞より）